共同運営部門：血液浄化センター

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
センター長 兼腎臓内科主任部長	重松　隆
副センター長 兼臨床工学・技術部門長 兼臨床工学・技術副センター長 兼泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター	荒川　昌洋

＜関連部署＞

部署名	部署名
腎臓内科	看護局6名
臨床工学・技術部門 臨床工学 5名	

＜特色と概要＞

当センターは慢性腎不全患者や急性腎障害に対する血液浄化法（血液透析・腹膜透析など）の導入や、合併症にて他科に入院中の維持透析患者に対する血液浄化法を施行している。当センターでは、毎朝の透析開始前ショートカンファレンスにて、当日勤務のスタッフ全員で透析患者情報を共有し、安全な血液透析施行に努めている。さらに週1回の症例検討も行っている。

血液透析や腹膜透析以外には血漿交換やLDLアフェレシスも必要に応じて施行している。腹膜透析患者管理も行っており、現在は7名の患者を管理治療している。透析室以外ではICU、EICUにおいて急性腎障害を合併した重症患者に対して持続的血液浄化療法（CRRT）や血液透析、体外式限外濾過療法（ECUM）なども臨床工学技士の協力を得て施行している。

＜実績＞

2025年度血液透析件数：2,640件

＜今年度の成果＞

導入患者への事前訪問

5年前から始めた看護師、臨床工学技士による患者訪問は定着し、透析導入時の患者の不安軽減に寄与している。

フットチェック

透析導入時に両下肢を写真に収め、専用のノートPCにてデジタルデータ保存、管理し、スタッフ全員が入力、閲覧でき、データを蓄積、フットケアに役立てている。

バスキュラーアクセス（VA）超音波検査

透析に必要なVA（自己血管・人工血管）造設術およびPTA（経皮的血管形成術）は当院では腎臓内科医師が施行している。純粋な内科医である腎臓内科医がバスキュラーアクセス(VA)手術のみならず、透析専門医として全ての管理を行っているのは近隣では珍しい施設と言える。ただし透析専門医が透析に必要なバスキュラーアクセス(VA)の手術と管理を行うことは今後の時代の標準となっていくと思われ、その意味では最先端の施設と部門であると言える。

バスキュラーアクセス(VA)外来時には臨床工学技士により超音波検査が施行されVA評価を行いカルテ記録も行っている。透析開始時の内シャント穿刺においてはエコーガイド下穿刺を積極的に施行しており、穿刺の難しい血管の穿刺も可能となった。

検査治療集計

表示名称	集計
新規バスキュラーAccess(VA)作成および再建 集計	**76**
末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）（単純なもの）	76
経皮的内シャント拡張術・血栓除去術	**376**
経皮的シャント拡張術・血栓除去術（1の実施後3月以内に実施する場合）	54
経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	322
経皮的腎生検	**68**
経皮的腎生検法	68

災害対策を見据えた近隣施設との連携

近隣の透析施設と交流を深め、行政を含めた泉州透析施設連絡会を結成運営し、完全に顔のみえる関係ができあがった。災害時の透析施設の被災状況を共有するツールとしてGoogle MyMaps 、Google スプレッドシートを導入し、さらにはセキュリティが厳重な医療介護連携SNSであるMCS（メディカルケアステーション）を活用し、日々の情報交換も可能になっている。

腎代替療法選択外来

腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）が必要な患者に対して、透析室の看護師がそれぞれの治療について詳しい説明を行い、患者が最適な医療を選択できるようサポートしている。腎代替療法について公平なお話と情報提供を心がけ、患者の年齢と社会的生活状況などを考慮し共に考える姿勢をとっている。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

今後も慢性腎不全、急性腎障害、その他の疾患に対して効果的で安全な血液浄化療法を提供できるよう医師・看護師・臨床工学技士が一丸となって取り組んでいきたい。

バスキュラーアクセス(VA)に関しても、当院は腎臓内科にて全面的に行っている特色がある。対外的にもこうした事実と実績を積極的に発信していきたい。

血液浄化センターとしては、院内の他科との連携に心を砕いているが、来年度はもう少し対外的な発表や論文・著書執筆等の情報発信を行っていきたい。